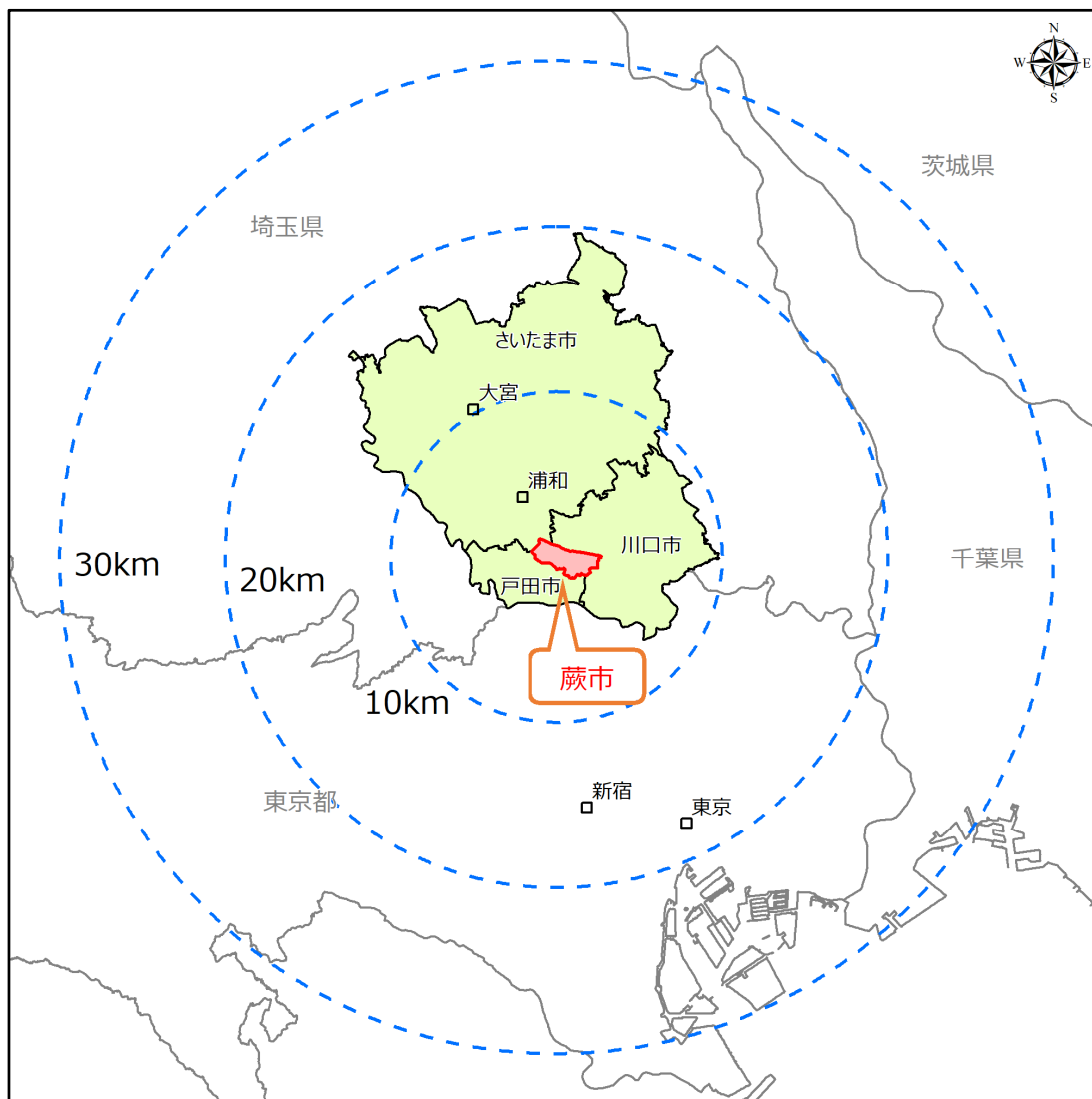


第1章 蕨市の概況

(1) 位置・地勢

本市は東京都心から約20km、埼玉県の南部に位置し、さいたま市、川口市、戸田市に隣接しています。大宮台地と荒川低地の境界付近にあり、ほとんどが海拔3～6m前後の平坦な地形となっています。

図 蕨市の位置



(2) 歴史的な背景

■ 江戸時代

- 江戸幕府の街道整備によって、蕨宿は慶長17年（1612年）頃に成立し、中山道69宿のうちでも5指に入る大宿場町に発展しました。
- 蕨宿のまちなみは、南北に約10町(約1.1km)続き、町裏に用水が掘めぐらされていた構造が特徴であり、この用水は生活用水として利用されたほか、宿場の防備や防火の役割を担いました。
- 江戸時代末期から塚越村を中心に綿織物業が盛んになり、その後2本の洋糸を絡ませて作る双子織が評判となり、織物業が飛躍的に発展しました。

■ 明治時代～昭和初期

- 旧中山道以外の場所は田んぼやススキが広がる風景でしたが、鉄道の開通に伴い、明治26年に開設された蕨駅から蕨宿を結ぶ1kmほどの通りに、新しいまちなみが形成されました。

■ 第2次世界大戦～昭和20年代

- 第二次世界大戦中の昭和20年（1945年）、3回にわたる空襲により、約400戸が罹災しました。
- 戦前よりはじめた市内各地の耕地整理事業が、この頃ほぼ完了しました。この耕地整理事業と、この後に実施した土地区画整理事業が、現在の市街地形成の基盤となっています。
- 戦時中の東京からの疎開や、三和町地区（現在の南町2、3丁目の各一部）における住宅団地の建設などにより、人口は次第に増加しました。

■ 昭和30年～昭和40年代

- 塚越などでは土地区画整理事業を実施しました。首都圏のベッドタウンとして住宅開発が進み、人口が急激に増加した結果、高密度な市街地が形成されました。

■ 昭和50年～現在

- 昭和30、40年代にはじめた土地区画整理事業が、昭和50年代にほぼ完了しました。現在、錦町で土地区画整理事業、蕨駅西口周辺で再開発事業が実施されており、魅力ある住宅都市の形成に向けたまちづくりを進めています。

このような歴史的な背景から、現在のまちの骨格は次のような流れで形成されてきたことが分かります。

- ① 中山道の宿場町として栄えた蕨宿が、昔からの中心地となる。
- ② 鉄道の開通に伴い蕨駅が開設され、新しい中心地となる。
- ③ 昔からの中心地（蕨宿）と新しい中心地（蕨駅）を結ぶ駅前通りに沿って市街地が広がるとともに、土地区画整理事業等の整備により、現在のまちの骨格が形成される。